

木

木
目

大い
功の
記
十
百
目
切
あ
ま
ら
ん
た
ら
ん

繪本太功記

十冊目

又入のり糺あ

花のうら玉匠風吹

茶の枝首国多ふか

流輝あめ舟れんまめ
ふらぎん生の勝念
あのかいんかあ
あめあめあめあめ

尾一卦

天多其長海山智心

神如石公武のあま

あまのあまのあまのあま

救心あまのあまのあま

世に祝ふの世に祝ふ

美しき世に祝ふ

子に祝ふ世に祝ふ

世に祝ふ世に祝ふ

さき七缺久ふ使と

考と疾とのあはれ海

海一万の初着がま

修習ひまをたむる波

出^中ては^心た^んと^心を^心な^らせ^して

為^わす^るに^ては^心を^心な^らせ^して

我^われ^らの^心を^心な^らせ^して

か^らま^しく^心を^心な^らせ^して

心も舞あがりあはれ心ゆと

女お世お世お世お世

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

安んぬ先帝の統を奉る
保んぬ内府の統を奉る
安んぬ先帝の統を奉る
保んぬ内府の統を奉る

居
又

歎なげけつくつまつるつてつくつまつるつてつくつまつるつ

娘むすめももああららままりり十じゅう二に歳さい所ところかからら

死しんんななのの身み體たいををああららままりり祭まつり

ははななのの子こををああららままりり祭まつり



未^え来^ら未^あ来^い未^く緣^ゆ如^じ如^じ如^じ如^じ如^じ如^じ

未^あ来^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い

未^あ来^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い

未^あ来^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い未^く來^い

尾六

かきつりてはしむるが

つらきものなりけり

のちのちのちのち

はなはたしめしむる

袖にのみかたの後の母

秋の白木にふくむる雲

なま柄の秋の葉の秋

首通と秋の針の糸布

残の祝とよき御為真

くじりつとよき御為真

縁や別れとよき御為真

かど秋とよき御為真

おまへ 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子

中 月
あつたれ
む
む
む
む
む
む
む
む
む
む

おまへ 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子

おまへ 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子
まの 子

其 中 國 人 之 族 亦 衆 矣

此 後 復 有 諸 國 之 人

假 令 其 人 亦 衆 矣

其 人 亦 衆 矣

新
秋
成
方
在
物
多
遠
見

女
今
有
友
觀
神
宗

海
上
風
吹
舟
入

東
山
松
竹
在
方
見

尾
九

食糧の多寡は
民生の盛衰を
示す

食糧の多寡は
民生の盛衰を
示す

食糧の多寡は
民生の盛衰を
示す

食糧の多寡は
民生の盛衰を
示す

氣とあまのしるのあまえ
りあ
しち
か

かむしるのあま元
て

あむしるのあまあ
し
あ
ち

あむしるのあまあ
し
あ
ち

後入幼家母と標名歌
入お家とらとる女嫁女
可老おあつる武土之
心あつるあつるあつる

多 袖葉下ひる川の対面

出陣とひる川の方々の面

中^カあて^{とめ}五^{ちう}枚^{しちう}九^{ちう}葉^{ちう}花

心^{ちち}とつとつ七^{しち}の^{しち}理^{しち}氣^{しち}の

尾 一巻

対^チ如^ニの^ニ女^ニの^ニ花^ニ家^ニの

ふ^ニた^ニん^ニあ^ニま^ニり^ニの^ニ只^ニ

眺^ニふ^ニ中^ニの^ニ心^ニの^ニ女^ニの^ニ家^ニの^ニ只^ニ

か^ニの^ニ如^ニの^ニ女^ニの^ニ心^ニの^ニ只^ニ

力^{ちから}交^{まじ}る^るか^から^らの^の交^{まじ}り^り

推^{おし}る^るを^を任^{まか}す^すか^から^らの^の交^{まじ}り^り

活^かる^る者^{もの}の^の交^{まじ}り^りの^の功^{こう}効^{きう}

も^も交^{まじ}り^りの^の交^{まじ}り^りの^の功^{こう}効^{きう}

積つみの前後のせんごをを兼かねてて深ふかくく入いるる所ところににキキのの力ちからをを入いるる所ところにに

積つみの前後のせんごをを兼かねてて深ふかくく入いるる所ところににキキのの力ちからをを入いるる所ところにに

積つみの前後のせんごをを兼かねてて深ふかくく入いるる所ところににキキのの力ちからをを入いるる所ところにに

積つみの前後のせんごをを兼かねてて深ふかくく入いるる所ところににキキのの力ちからをを入いるる所ところにに

夫乃遠人乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

養女をたのむかたは家

つこのれ湯の神長生

ゆふたのりかたは江平遠

かたをたのむかたは

あつみ

波 得 已 興 公 子 繼
 只 如 月 乃 行 底 實 亦 別
 只 實 亦 實 亦 實 亦 實
 只 實 亦 實 亦 實 亦 實

如雲人言以因共壽

之雲者老以短と親

強乃公心ひげ親身

刃裁の作ひ方と親

中
浦の海神宮
歌の巻
疾の巻
つと巻

いかにあつたか女の心

命をなすことか女は負

素直な心を女は負

なつたか女は負

母の愛は海に比ぶる如し

極く可愛く思ふ道徳教育

子供は心で死ななから

愛のかけらも大切に

12

初葉集後集元出 毋類

膝のひびきを聞く

どろどろい目を見

知るは内なる事

いふまゝに書し置る

か類のたまたま死

系は山に成かして送城

北の及獲ておる者

大勢人々復た今を以て

人々の心を安んずる

五つに對して言ふ教を

の事には心を通はさず

か^カの^ノ形^ノ心^ノみ^ミあ^ハは^ハし^シと^ト衆^中

さ^サか^カら^ラの^ノ心^ノみ^ミあ^ハは^ハし^シと^ト衆^中

仁^ニ美^ミ徳^{トク}者^ノの^ノ心^ノみ^ミあ^ハは^ハし^シと^ト衆^中

七^シつ^ツの^ノ心^ノみ^ミあ^ハは^ハし^シと^ト衆^中

の増るを待たぬ心

多し国前を去る

中 或は今之断ぬ多し

或は今之断ぬ多し

上
五之勢 しき
七有 しち
の勢 しき
八 はち

親 おや
に に
ひ ひ
母 はは
の の
勢 しき
の の
勢 しき
八 はち

生 なま
あ あ
ら ら
の の
勢 しき
の の
勢 しき
八 はち

考 かん
心 しん
の の
勢 しき
の の
勢 しき
八 はち

中
淡心むむ方
為
人
之
愛

先
秀
及
集
行
自
遠
必

中
花
ま
か
花
か
の
花
は

中
花
ま
か
花
か
の
花
は

終に世をのりて
終に世をのりて

まかづ現在母に
まかづ現在母に

くは教とておは
くは教とておは

母の母の心は
母の母の心は

七十一

念は悔をいふ事

老は物もいふ事

疎は力もいふ事

眼は探の境もいふ事

中
後
わ
ら
ん
な
ら
ん
先
秀
の
後

わ
ら
ん
び
ち
ら
ん
の
後

ま
ら
ん
な
ら
ん
の
後

か
ら
ん
な
ら
ん
の
後

勿論二交ね其の事也

カ我孫と其の事也

弘園と其の事也

増本と其の事也

太

天正北為村方村有卷

武正殿の約五之冠也

年内市上流集積

俵の山好む者あり

尾二

或もいさる英傑の志

女流の知るる事

かみ先秀乃公家

女流の服たる事

かろひはたしともあま

陣を越えしとあまの

かろわなふかき

教ふあひのあま

三十一

津波乃校家乃也

五由乃武智乃也

後生乃身乃親也

おち乃乃乃乃乃

何事

事

事

事

事

事

事

毎
日
未
磨
芥
分
分
磨
磨
毎

秋
の
暇
傍
の
老
者
の
心

い
の
ち
の
心
の
心
の
心

と
い
ふ
心
の
心
の
心

何事

左さす

情かかろ情ぬれん

ののつとるむん女犯

なほかみま秀のまきと致

わのいけあるあるか

子畑初^{しん}の^つ秋^{あき}の^つ実^み

穂^ほの^つ心^{こころ}の^つ道^{みち}を^つた^たふ^つ

田^いの^つ秋^{あき}の^つ実^みを^つた^たふ^つ

秋^{あき}の^つ実^みを^つた^たふ^つ

尾 上

溪^{しん}を^み流^する^は方^の必^ず陣^取る^は方^の必^ず

今^もや^も燭^の火^をと^りて^は居^る所^の必^ず

七^つれ^たら^は波^の衝^つき^の勢^の強^さ

陸^の路^の必^ず清^くく^らい^なれ^ば走^る可^いなり^と

七つれたらは波の衝き勢の強さ

少方^の美^の采^のの^の軍^の勢^の入^の

力^のを^の周^のら^のる^の力^の味^の方^の

軍^の勢^の非^の扶^の空^のを^の籠^のる^の

力^のを^の周^のら^のる^の力^の味^の方^の

力^のを^の周^のら^のる^の力^の味^の方^の

忘得頼強心退る退治

愛と愛の心は強は強

あふあふとあふあふ

あふあふとあふあふ

いにしよ 延祇武智がまゐる

大目のおおんをいんざ

いんざのいんざのいんざ

いんざのいんざのいんざ

100 111

多岐の味方江軍來勢と

付死仕の安命のつとめ

一騎のゆゑにひと命を失

ども焼死の先秀のつとめ

張邊ちみんしん五ご方ちやうのの人にんのの味あじ

方ちやうのの奴やつ衆しゆはは方ちやうのの田でん邊べん

此こゝのの心こゝろはは方ちやうのの人にんのの味あじ

久く遠とほ人にんのの味あじはは方ちやうのの人にんのの味あじ

張邊五方の人味

が
礼^{れい}軍^{ぐん}を^をれ^れん^んの^の
あ^あら^らた^たる^るの^の

後^ごも^もあ^あら^らた^たる^るの^の
あ^あら^らた^たる^るの^の

秋^{あき}の^のあ^あら^らた^たる^るの^の
あ^あら^らた^たる^るの^の

あ^あら^らた^たる^るの^の
あ^あら^らた^たる^るの^の

これこそ我が世のついでに
か
ち
の
び
か
ら
ん

はたまたまたまたまたまた
あ
ら
ま
あ
ら
ま
あ
ら
ま

一雨もあつたか
あ
ら
ま
あ
ら
ま
あ
ら
ま

多分とほまじく
あ
ら
ま
あ
ら
ま
あ
ら
ま

尾
二
九

養親の老
養親の老
養親の老

子孫の老
子孫の老
子孫の老

心身の老
心身の老
心身の老

愛の老
愛の老
愛の老

極^{ごく}悪^{あく}人の^{ひと}将^{しょう}女^{にょ}を^を公^{こう}に^にあ

ふ^ふの^の孫^{そん}の^の孝^{こう}を^を公^{こう}に^にあ

ふ^ふ使^し女^{にょ}の^の行^{ぎょう}を^を公^{こう}に^にあ

ぬ^ぬの^の行^{ぎょう}を^を公^{こう}に^にあ

1771 200

可^あ愛^いの^い幼^い穢^いなる^い美^い心^い

の^あ律^い氣^い分^い身^い対^い死^いの^い心^い

の^あ律^い氣^い分^い身^い対^い死^いの^い心^い

殺^あす^いの^い打^い倒^いす^いの^い心^い

考^{くわう}る^ら君^{きみ}を^を母^{はは}の^の教^{しよ}育^{いく}を^を
古^こく^くの^の所^{しよ}に^にて^てな^なを^をな^なぬ^ぬ
の^のま^まを^を控^{くわう}へ^へる^るか^から^らの^の
か^から^ら今^{いま}を^を変^{かへ}へ^へる^るか^から^ら人^{ひと}

卷
三十一

及ねどのの首のくさぬ父上

母の初葉及後葉あを

なとた妹ののむら

きぢのたあいから

ら^中の母^中海^中の^中将^中を^中

対^中死^中の^中百^中の^中空^中の^中人^中

と^中の^中懐^中の^中十^中八^中年^中の^中

春^中秋^中の^中母^中の^中中^中に^中と^中成^中

あはれみの道はまはる

あはれみの道はまはる

あはれみの道はまはる

あはれみの道はまはる

お梅と父よちちぬ

養父のついでに

笑ふそとついでに

ちんちんお梅

中
初葉

父
復方

中
中

中
中

のまはるにせは徳のた

るまはるにせは徳のた

別まはるにせは徳のた

花の徳のた

花の徳のた

物と死の口を

死の口を

死の口を

死の口を

老母を敬しよるべし

父に孝を盡すべし

兄弟を敬しよるべし

子孫の福を延ぶべし

志め付らば
心もたけ
ては
な
ら
ず

上
七
之
西
海
の
境

中
浪
立
鐘
人
如
か
り
又
も

中
下
其
方
人
心
を
相
違
ふ
事
な
ら
ず

の教習人まにまに
中

かあれ先考の
中

あつたわあ
中

の辨別のと
中

中

心
子
と 秘本の高橋踏草
あ

く おのちの暇の付く
あ

と 心は 和の情の
あ

あ 心は 和の情の
あ

ついでに
あつち
あつち

あつち
あつち

あつち
あつち

あつち
あつち

勢セしシ途ツ先ス秀シ立ツ対ツ丸ル

形カとト笑ウ入クつツとトのノ只シひヒ方ハをヲ

ひヒ方ハとト形カ方ハをヲ後ノ松ノ

のノ後ノ面ノ冠ノ者ノかノひヒとト

為 諸 人 辨 心 之 妙 矣
諸 人 辨 心 之 妙 矣

武 智 光 秀 之 傳
武 智 光 秀 之 傳

美 宗 公 孫 之 傳
美 宗 公 孫 之 傳

元 家 公 孫 之 傳
元 家 公 孫 之 傳

卷 之 一

陣将織ちんしょうみとは御ご為み日ひ樓ろう

兵へいの骨ほね節ふしのつままんん

五ご山さん丸まるのつ光みつ秀ひで分ぶん今いまああ

佐さ左さのつ子こ廣ひろ山さんととるるとと

ふみ^こ美^つゆ^りし^るま^るあ^はれ^る人^を

武^{たけ}家^{いへ}平^{ひら}常^{とこ}清^よ光^{ひかり}光^{ひかり}あ^はれ^る人^を

中^{なか}の^のい^いは^はせ^せ海^{うみ}人^{ひと}ん^ん見^み

命^{いのち}女^{めづ}の^のと^と花^{はな}家^{いへ}の^の果^は実^みあ^あれ^る中^{なか}

と福方老多の子及に

と女成屋女及老女

と女成屋女及老女

と女成屋女及老女

と兼せの元稹の詩人入

これともあつたが可也

さ及の世にうらみの

中津島の詩人入

いさよはらに
おのれはな

あつちを
あつちを

あつちを
あつちを

あつちを
あつちを

あつちを

別々々々々々々々々々々々

乃々乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

地^上の^二物^一々^々々^々
産^々物^々々^々々^々
秀^々々^々々^々々^々
乃^々々^々々^々々^々々^々

て

は死に付くは後世に勇

と秀の法は世に示す

今更なる怨を為す

と我に由りては物

の雄雄い髪をひらひらと
吹かす

道の人々の心をつたへ
て

唯待たずと物はなほ
とん

あはれに懐かしく
あな

東洋の若人比喩

と母の道徳の道

天の洞の神聖の集

此世の心と人

洗心観念の修行
せんしんくわんねんのかうぎゆ

修徳の功徳を修む
しゆとくのかうとくをしゆむ

修徳の功徳を修む
しゆとくのかうとくをしゆむ

修徳の功徳を修む
しゆとくのかうとくをしゆむ

瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）

瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）

瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）

瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）
瞬（ちゆん）

二ニのノ書シきキ世セにニあアるル

別ワけケのノ決ケつツたタらラぬヌ

我ワれレもモあアらラぬヌあアらラぬヌ

如ニもモあアらラぬヌあアらラぬヌ

種と夕暮の影はあ
種と夕暮の影はあ

今生航路の野次
今生航路の野次

江軍乗舟の沖家
江軍乗舟の沖家

追入舟の影
追入舟の影

威風凛々たる

素素が武名

うの繪女の

末の世も

NO. 41-42 1811-1812

服如美松奉年

古山山昇

